

「ミスタ12%」の後に

週のはじめに考える

京都人がいけず(意地悪)といわれるのは「つわべだけの付き合い」を大切に行動様式に關係している。一見さんお断り」の礼も、あえて本心とは逆の好意を示すあいさ言葉も、ストレートな感情表現ではなく婉曲的な表現で、無用な争いを避ける知恵と思える。それは歴史の中ではぐんだ、その時々感情や状況に振り回されず、相手の立場を傷つけずに關係性を保つことで、本当に大切なものを守る手だてでもあったらう。

これを今あえて思つのは、本意を抑えて建前を大切にすることの意味合を感じる事が多くなったからだ。政治の世界でも大事にすべき理念が目前の分かりやすい事象を理由に否定されることが少なくない。その結果、社会のありようがめがんでいく状況が続いてはいまいか。

放送を巡って強硬かつ執拗な政治介入があったことが明らかになった件でも、一番の肝は番組内容に政治家が口を出すことの是非だ。放送法の建前は放送の自由を守る規律であつて、国の役割は自由を保障すること、法を根拠にした規制は誤った解釈である。にもかかわらず、政府も追及する野党も介入自体を当然視し、もつぱら、一つの番組で判断するのはダメだが、番組全体なら許される、という議論になっている。こうした政治家の本意に引張られた結果、政府の規制は許され、どこまでなら許容されるのかとの議論になってはいないか。

統一地方選では、テレビや新聞の報道に限らず、国政選挙でもさまざまな試みがあるネット上の候補者情報も圧倒的に少ない。それが、ジャーナリズムは終わっているという声

「つわべだけ」をうまく生かす



時代を
読む

専修大学教授
山田 健太

につながつていよう。だから、選挙報する側は、政府や政党からのクシ一対応は面倒だから無難にやろうとの気持ちをもつことのみ込み、選挙報道の自由という原則を実行することが必要だ。自由で豊かな取材・報道ができる環境を、メディア自身がつくる気概が必要だろう。

放送法の問題も憲法が保障する表現の自由と直結する問題だが、平和を希求してつくりだされた「国のかたち」も大きな転換点を迎えている。軍産産業はもつかること、経済界の意向や、米国の世界軍事戦略にあわせないとはいけないこの村度が吹き荒れる中、戦争はしないという憲法の本旨は風前のともひびだ。しかも、明日にもミサイルが撃ち込まれるとの恐怖をおおること、軍備増強が唯一の備えとの印象操作が加わり、「戦争ができる普通の国」に脱皮する直前だ。

脱原発社会への移行を旨とする政策は原発帰還と読み替えられ、福島の高濃困難区域の避難指示解除や処理済み汚染水の海洋放出の手續きが粛々と進む。これは、廃炉も汚染土の処分も見通しが立たない現状を見ないふりをした「いつまでもツクシマにかかわっていたら前に進めない」との大人の事情を優先した結果にみえる。3・11を反省した脱原発路線は完全にかすんでしまった。

広島サミットが世界へのアピールの場であるとするれば、政府は表現活動に一切の介入をしない、すべての核は否定する、一切の戦争は悪である、この建前を書きまくる宣言すること、世界にリーダーシップを示してほしい。敵味方をはっきりさせるのではない、芯の通った「つわべ」の付き合いが求められる。

3月8日国際女性デーにちなんだテーマ投稿「暮らして感じる男女差別」への多数の投稿ありがとうございませう。本日は統一地方選前戦の投票日。紙面の都合で掲載できなかった、政治絡みの女性差別問題をテーマにしたご投稿を紹介させていただきます。「公職選挙法に基づき立候補者から届くはがきに差別を感じる」と、神奈川県川崎市80代

三月二十六日の朝刊一新聞は読者の皆さんに「ミカタ」を旨指すと約束し、九月に創刊百四十周年あたつての約束。四月か面「東京新聞」の題字「ミカタ」を載せて人生のパートナーとしてあり続けたいという決意な視点、価値観、つまり

投票率向上

来年9月 創刊140周年
読者の皆さんへの約束

東京新聞 140th

▲少くも、紙面やインターネット上で読者の皆さんの声を聞くためのマークです。みんなのミカタの文字の上には、印刷と合わせて見出し、新聞を表現しました。新聞の上には、読者の声はミカタのマークです。(02)54561001

3月26日付の本紙朝刊

2023.4.9